新聞
（第三種郵便物認可）
2025/9/3

中経論壇

経営支援
NPOクラブ監事
吉田　仁

孫娘の感想文をきっかけに考えたこと

ポピュリズムへの警戒

愛知に住む中学1年の孫娘の読書感想文を読む機会があった。「僕がスカートをはく日」というトランスジェンダーの物語についての感想文である。トランスジェンダーの人が、もっと気軽に相談できる世の中に変えていく必要があると、感想をまとめているのだが、その過程の文章が目に止まった。

主人公の養母はトランスジェンダーを理解できず、主人公が女の子になろうとするのは、担任の先生の責任であるとして、学校から追い出そうとするが、それを理不尽と思う箇所である。養母が自分の偏見を棚に上げ、本人のためと思い込み、担任の先生を「悪い人」として糾弾することに、違和感を覚えている。私もこの本を読んでみて、担任の先生を追放する養母の姿勢は理不尽であるとした中学生の思いを理解した。そして、敵を作ることによって自己の正当性を訴える手法は、ポピュリズムの常套手段であることに思いがいった。

ポピュリズムにおいて、敵とは政敵だけではなく、対象は環境対策であったり、来日外国人であったり、トランスジェンダーであったりもする。単純で分かりやすいキャッチフレーズで敵を設定し、短い言葉で論難する。ポピュリズムにとって、SNSは使い方次第で有効なツールである。さまざまな情報を得やすく、誰でもが情報の発信者になりえて、それは広く速く拡散される。その中には、フェイクニュースも混じる。それらは、自分の好みに合った情報ばかりが届くような仕組みの上に成り立っている。情報を受ける側が、内容をしっかり吟味する姿勢を持たないと、自己の判断を誤ることになる。孫娘の感想文は、中学1年生でも持っているような判断力を失った生活をしていないか、事実を確認し自ら考えるようにしているかと、自らを振り返るきっかけになった。

自由や人権という独立時の精神を尊重し、政治体制としては、三権分立の民主主義社会を築いてきた筈のアメリカが変調をきたし、ヨーロッパにもポピュリズムの波が押し寄せている。世の中には二者択一で判断できる事柄は少なく、キャッチフレーズだけでは本質は捉えられない。SNS社会は、利便性が高いからこそ、情報の取得にはひと手間かけないと、目に見えない何者かに、知らないうちに踊らされていることにもなりかねない。昨今の選挙状況をみると、日本にも、口当たりの良いポピュリズムが芽生えてきていると恐れる。選挙で示される民意とは、個々人の意思の積み重ねであるから、一国民として自己の判断を常にブラシュアップするため、情報の取り方には注意を払いたいとあらためて思う。